

## サクラ類

石田 徹 (S-127509・奈良)

広義のサクラ類はスモモ属(*Prunus*、プルナス)に分類されますが、サクラ類の多い日本では1992年以降、狭義のサクラ属(*Cerasus*、ケラス)として分類するのが主流となっています。

この展示では狭義の分類に従い、広義サクラ属範疇の以下6属をサクラ類として展示します。サクラ属 *Cerasus*、モモ属 *Amygdalus*、スモモ属 *Prunus*、アンズ属 *Armeniaca*、ウワミズザクラ属 *Padus*、バクチノキ属 *Laurocerasus*。



## サクラ類 Cherry Blossoms

広義のサクラ類はスモモ属 (*Prunus*、プルナス) に分類されるが、1992 年以降の日本では狭義のサクラ属 (*Cerasus*、ケラス) として分類するのが主流となっている。

これは、比較的サクラ類の多いロシアや中国ではサクラ類を独立した属として分類していたのに対し、伝統的にサクラ類の少ない西欧と北米ではサクラ類をスモモやモモやウメなどとスモモ属 (*Prunus*) に一括して分類していたため、西欧や北米の基準に合わせる事が多かった日本の科学も、従来サクラ類をスモモ属 (*Prunus*) としていたが、1992 年以降は、実態に合ったサクラ属 (*Cerasus*) 表記が主流となった。

ここでは、以下の狭義 6 属が、広義サクラ属範疇となる。

- サクラ属 *Cerasus* (エドヒガン、ソメイヨシノ、ヤマザクラ、セイヨウミザクラなど)
- モモ属 *Amygdalus* (モモ、スイートアーモンド)
- スモモ属 *Prunus* (スモモ、スピノザスモモ、ヨーロッパスモモ)
- アンズ属 *Armeniaca* (アンズ、ウメ)
- ウワミズザクラ属 *Padus*
- バクチノキ属 *Laurocerasus*



被子植物門  
モクレン目(双子葉植物)  
バラ亜綱

サクラ属

バラ科 Rosaceae

エドヒガン *Cerasus spachiana* f. *ascendens*  
= *C. itosakura* var. *itosakura* f. *ascendens* = *Prunus spachiana* f. *ascendens* = *P. pendula*  
\*アズマヒガン、ウバヒガン、種崎桜



日本 2009 \*薄墨桜  
2021 \*真庭市の醍醐桜  
2017  
2011 \*石割桜  
80円 奈良県 桜の国  
伊藤嘉見「薄墨桜」  
1989

イトザクラ *C. spachiana* f. *spachiana*  
= *C. itosakura* f. *itosakura* = *Prunus pendula*  
\*シダレザクラ



2000  
2009 京都府立植物園  
2023 角館武家屋敷通り  
2001  
2003 酒井抱一「四季花鳥図巻」  
80円 奈良県 桜の国  
奥村土牛「醍醐」  
1987

江戸彼岸 人里近くに大木となり寿命が長く、花が目につきやすいため、農村部では「種崎桜」として農耕の目安にもされた。開花期が早く彼岸の頃となる。枝が枝垂れるものがありイトザクラ、シダレザクラという。

被子植物門  
モクレン目(双子葉植物)  
バラ亜綱

モモ属

バラ科 Rosaceae

モモ *Amygdalus persica* = *Prunus persica* = *Persica vulgaris*



日本 2018  
62  
60p  
日本 2024  
ハナモモ



1963  
日本 2014  
日本 1990  
1986



1969  
2007  
1973



日本 2001  
1962  
2001

桃 原産地は中国、ベルシャとされる夏の果実。日本では縄文時代から食されていた。古くは小ぶりで固く果汁も少なかったが、今は軟らかく多汁が主流となっている。果樹としても花木としても多くの栽培品種があり、食用のほか漢方薬としても利用される。特に邪気を駆逐する腸気の樹とされて、重篤な信仰もたらした健康増進が願われた。